昭和50年度第3回シグマ委員会拡大幹事会議事録

日　時　　昭和51年2月6日（金）　13時30分～17時30分

場　所　　日本原子力研究所東海研究所第3会議室

出席者　　塚田甲子男（主査，原研），（以下50音順）
浅見哲夫（原研），飯島俊吾（NAIG），五十嵐信一（原研），
大竹　巌（動燃），金森善彦（三井造船），菊池康之（原研），
関　雄次（MAPI），中川庸雄（原研），中嶋龍三（法政大），
西村和明（原研），更田豊治郎（原研），松延広幸（住友），
山本正昭（日立）

欠席者　　桂木　学（原研），田中茂也（原研），久武和夫（東工大），
宮坂駿一（原研），百田光雄（東北大）

- 配布資料

1. 遮蔽定数作成ワーキンググループの設立について（51－2－6　同発起人）.
2. シグマ委員会拡大幹事会に対する，JENDL－1の処理（群定数化）と積分テストの実施に関する答申（51－2－6　JENDL－1　臨時小委員会）
3. 原子核データ室人員計画表および業務計画表
4. 日本原子力学会会長より原子力委員長宛：核データ整備の専門機関設置に関する要望書（50－9－12付），INDC Chairmanより原子力委員長宛：Japanese Nuclear Data Centre（1975－12－17付）
5. シグマ委員会メンバー・リスト（1975－11－5現在）
6. INDCおよびNEANDCドキュメント配布リスト（現在のもの：INDC（SEC）－47／U（June 1975）およびNEANDC－93"U" Rev. 7（Sept. 1975）よりの抜粋．76WRENDAへのRequestorsのリスト。
7. 「核データ小委員会（仮称）」第1回会合について（1975－11－25更田）
8. from NEANDC Chairman to the Members：19th NEA-NDC

Meeting ; Time, Place and Topical Discussion

9. from NEANDC Chairman to the Members : Monographs on Selected Topics in Applied Nuclear Physics and Nuclear Dara

10. from G. Lammer (NDS/IAEA) to Receivers of the FPND report series : Distribution of the FPND report series (1975-11-17) (会合で回覧)

11. Report on the Nuclear Structure and Charged Particle Reaction Data Survey, by T. Burrows et al. (NNCSC/BNL) (1975-8-25) (回覧)

12. 原子力工業 1976年2月号(特集:核データ利用の現状と将来)(回覧)

議　事

1. 遮蔽定数作成ワーキンググループの設立について

金森委員より配布資料1にもとづいて，この件の準備会からの答申の説明があった。この準備会は，大竹(動燃)，桂木(原研)，金森(三井造船)，川合(NAIG)，小林(MAPI)，長谷川(原研)，東原(川重)，宮坂(原研)，山越(船研)の委員諸氏からなり，50年9月2日から51年1月28日まで6回の会合を持って答申を作成した。答申では標準遮蔽定数ファイルの必要性を国内および国際的背景を含めて説明し，約10名程度からなるワーキンググループを炉定数専門部会内に早急に結成し，51年12月末までに2次ガンマ線データの収集・整理および関連コードの整備，52年9月末までに群定数を作成，52年12月末に積分テストを完了するという予定で作業を開始することが提案された。

現在高橋委員(東工大)を中心に検討されている。ガンマ線生成断面積に関する作業との関連を考慮すべきであるとのコメントを含む質疑の後，上記答申は全般的に承認され，ワーキンググループを早期に発足させることとなった。

2. JENDL−1の群定数化と積分テストについて

飯島委員から配布資料2にもとづいて，この件に関する臨時小委員会の答申の説明があった。この臨時小委員会は飯島（NAIG），五十嵐（原研），大竹（動燃），桂木（原研），菊池（原研），関（MAPI），長谷川（原研），山本（日立）の委員諸氏からなり，50年12月15日，26日，および51年1月9日の3回の会合を持って答申を作成した。この答申は短期計画に関するもので，長期計画については参考意見が付されている。その提案の概要は，炉定数専門部会内に約10名からなる「JENDL-1積分テスト・ワーキンググループ」を1976年3月から設置し，1976年6月末までに群定数ライブラリーを作成し，これを使って積分テスト計算を行い，その結果にもとづく勧告を1976年9月末までに作成し，この勧告を参考にJENDL-1の改訂と改訂群定数ライブラリー作成を同年12月末までに行い，1977年3月末までに積分テストの再計算と報告書を完了して，短期計画を終ることにしている。答申には群定数化および積分テストの仕様の概要も述べられており，作業の一部を原研から外部に委託することが考えられるとしている。若干の討議の結果，上記答申は全般的に承認され，ワーキンググループを早急に発足させることとなった。このワーキンググループの責任者は菊池委員（原研）と関委員（MAPI）が事務局と相談の上決めることとなり，本会合の直後相談の結果菊池氏とすることになった。

3. 原子核データ室（核データセンター）発足後のシグマ委員会のあり方等の検討

原子核データ室（核データセンター）を原研物理部に設置する組織要求が51年度に認められる見通しとなったことが事務局より報告され，原子核データ室の昭和54年度までの人員計画表と55年度までの業務計画表（資料3），および資料4が配布されて，自由討議を行った。時間的制約もあり，特にまとまった議論は行われず，今回は予備的討議に終った。討議における意見を断片的に拾うと，群定数までを含めた一貫したものの重要性，グラフ類の出版を含む編集物の作成，多面的なデータの供給，JENDL-2の完成公開時期を資料3では54年度末と

しているがもう1年早く出来ないか，原研の調査委託と委員会ワーキンググループの作業との関係，会社関係でも核データに関する実際的作業の重要性が認められてきている，委員会は作業を行うことよりも計画や作業結果などの検討の場であることが主である，などについてであった。

4. シグマ委員会および専門部会メンバー人事

現在のメンバー・リスト（資料5）を配布したが，オブザーバーに関して以外には特に議論はなく，来年度のメンバーについて本委員および専門部会長宛にアンケートを出すことになった。本委員会へのオブザーバーのリスト作成については，原研から調査委託を受けている各担当者をリストに入れるべきであるとの意見と調査委託を受けているということと本委員会へオブザーバーとして出る意義とはピッタリこないとの意見や，本委員会に代表の出ていない機関あるいはグループの人をオブザーバー・リストに入れる，などのコメントがあった。

5. INDCおよびNEANDC ドキュメント配布リストの検討

資料6をもとに検討し，事務局案に2～3の修正を加えて承認した。

6. 核データ小委員会（仮称）について

核物理委員会の依頼により，表記の会合が1975年11月21日に東大大型計算機センターで行われた。メンバーは田中一（北大），池上栄胤（核物理研），長谷川武夫（核研），大沼甫（東工大），更田豊治郎（原研）の5氏である。この会合についての更田委員のメモ（資料7）が配布されたが，特に質疑はなかった。

7. 国際会合など

NEANDC Chairman からメンバーへのメモ2件（資料8，9）が簡単に紹介された。NEANDCの次回（第19回）会合でのTopical Discussionのテーマとしては 1) Inelastic Neutron Scattering と 2) Integral

and Differential Afterheat Measurements とが挙っているが，1）については最近Harwell で会合があったことでもあり，2）の方がより好ましいという空気であった。

8. 専門部会の５１年度作業計画など

時間がなく審議未了。

9. 次回本委員会は４月下旬を予定する